



広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2024. 11. 1
第 84 号

今年度の聖句

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。テサロニケの信徒への手紙1 5章 16 節～18 節

全世界に行って、福音を宣べ伝えなさい (マルコ伝 16 章 15 節)

在宅ホスピス研究所パリアン医師 川越 厚



父が広島女学院の校舎内で被爆したことをわたしは小さい頃からよく知っていたが、英語教師をしていた叔母の三千子が被爆死したことを知ったのは最近のことだった。1944 年春に広島女学院の英文科を卒業した若き英語教師だった叔母 (旧姓 川妻三千子) は、翌 1945 年 1 月、松本卓夫女学院長の司式で父の弟の助と結婚した。だが叔父は結婚後ほどなく南支へ出征したので、二人の新婚生活は実質 1 週間と、大変短かった。一人取り残された叔母は家業を手伝い乍ら、一週二日間女学院で生徒に英語を教えていた。

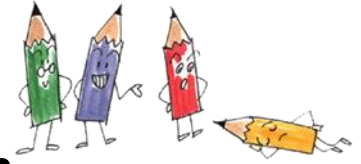
8 月 6 日の朝、茶の間にいて即死を免れた彼女と友人の吉川富美 (音楽教師) は、台所の下に掘られた防空壕へ逃げ込んだ。そこには二人しか入ることができず、一緒にいた祖母は「あなたたちは若いのだから、ここにいなさい。わたしは何とか逃げるから」との言葉を残し、泉邸のほうへ裸足で走っていった。祖母が家を飛び出してしばらくするとあたりは一面火の海となり、防空壕から

出ることができなくなった二人はそこで焼け死んだ。翌 8 月 7 日、三千子の弟の二郎は防空壕の中で温かみの残った二つの黒焦げの骨を見つけ出し、叔母の骨だけを拾って自宅へ持ち帰った。

松本院長は 1953 年 10 月 1 日付の広島女学院新聞で、川越旅館で焼死した若き二人の教師を悼んでいる。叔母については「ずば抜けた才能と優雅な性情とを美しく調和させておられた川越三千子先生」、一緒にいた同僚を「いつも謙遜に無私の奉仕を音楽指導のために続けてくださった吉川富美先生」と紹介している。

自分が叔母を失った遺族に該当することを知ったわたしは、広島女学院の平和祈念式に是が非でも出席したいと思うようになった。昨年初めて出席した平和祈念式は礼拝形式をとっており、パイプオルガンの前奏で始まり、中学茶道部員による献茶、中学礼拝委員による折鶴献納が続ぎ、後奏、献花をもって終了した。この日わたしは二つの平和祈念式に出席したのだが、女学院での祈念礼拝では最初から精神的な安らぎを感じることができた。祈念式に出て思ったのは、わたし達がヒロシマを忘れないで悲劇を語り継ぐことこそ「ヒロシマ発の平和」ということ。神様から託されたわたしたちの使命がそこにある。

平和を求める祈りが、女子中高生の幼い魂に受け継がれていく。祈念式に初めて出席し、その様を実感することができ大変うれしかった。
(元広島女学院大学教授 川越静枝先生のご次男)



いまの私につながる広島女学院

藤森晶子（平稻/高 49）

ノンフィクション作家 翻訳家 帝京大学非常勤講師



多くの同級生とは違い、私が広島女学院に入学したのは高校からだ。あれから 30 年、卒業して 27 年となる。

広島女学院高校に入学して初めての三者面談だった。担任の瀬田先生が、東京にある大学への受験を視野に入れてもいいというようなことを言ってくださった。自分なんかにもそんな可能性があることを初めて意識した。そのうちにすっかりその気になってしまい、両親に広島県外の大学を受験したいことを伝えた。そのときの反対ぶりはすさまじかった。最終的には許してくれた。



留学していた街ストラスブール

大学卒業後、大学院にまで進学させてもらった。希望していたフランスへの留学は両親にまた反対されることがわかっていたため、奨学金を得て、決まってから告げた。住むことになったのはストラスブール

という街だ。フランス東部アルザスにあり、ドイツ国境と接する。フランスでは 3 年を過ごした。

留学したいと思ったのは、歴史の調査をしてみたいと思っていたからだ。

第二次世界大戦中、フランスはナチ・ドイツの占領を受けていた。1944 年夏、4 年間続いたドイツの占領から段階的に解放されようとしていたとき、町々に駐留していたドイツ兵士の「恋人」と糾弾されて頭を丸刈りにされるという暴力を受けたフランス人女性たちがいた。

初めてこのテーマに出会ったのは、センター試験を控えた広島女学院高校 3 年生の年末だった。こたつに足を突っ込み寝そべりながら眺めていた NHK の『映像の世紀』で、泣きながら列を成す髪のない女性たちの映像が流れ、いたたまれない気持ちになった。この映像のように、丸刈りにについての映像記録は多く残っている。映画のワンシーンとなることもあった。写真も多数あり、最も有名なものは、戦争写真家ロバート・キャパが撮影した写真だろう。群衆に追い立てられながら乳飲み子を抱えて歩く、丸刈りにされた女性の写真がそれだ。

しかし、この女性たちがこの暴力を受けた後、何を思い、どうやって生き延びたのか、それを描いたものはほとんど存在していなかった。私はこの暴力を受けた女性に会ってインタビューをしてみたいと強く思った。

フランス人歴史研究者の調査では、このような女性性は 2 万人いるとされていた。かなり幅広い年代の女性がその暴力の犠牲となったが、最も若い世代は自分の祖母と同世代だった。原爆を生き延びた祖母の人生には続きがあるように、丸刈りにされた女性た

ちもそうであるはずだった。この成果は『丸刈りにされた女たち「ドイツ兵の恋人」の戦後を辿る旅』(岩波書店)としてまとめた。



さて、昨年末には『パリの「敵性」日本人たち 脱出か抑留か 1940-1946』(岩波書店)を刊行した。戦時中にフランスに住んでいた日本人が迫られた、「敵国人」としてフランスに残るか、日本に帰国するかを選択に焦点を当てた。調査を始めたのは、丸刈りにされた女性たちの調査をしていた頃に偶然目にした一枚の写真がきっかけだった。その写真には、フランスのレジスタンス活動家にどこかに連行されていく白髪の東洋人男性が写っていた。

ドイツ人と親しくしていたフランス人女性が暴力を受けた研究をしていた私だが、その写真は、ドイツの同盟国出身者の日本人にもその矛先が向かう可能性があったことに気付かせてくれた。アメリカでの日系人の強制収容については知られているが、それから情勢が変化し、フランスで割と自由に生きていた日本人が、今度は逮捕、収容される番になった。

国際情勢は自分と直接的には関係ないようで、ひとたび国外に出ると実際はそこから逃れることは難しい。フランスへの留学、遊学という、藤田嗣治のような芸術家を思い浮かべる人も多いだろうが、できるだけ「普通の」人に光を当て、さまざまな人生を描き出すことを試みた。

戦時中の外国人といえば、広島女学院の同窓生の皆さんの中には、当時女学院で勤務されていた外国人の先生方の境遇について思いを巡らせている

方がいらっしゃるかもしれない。

いま手元にある『夏雲』(改訂第五版、1990年)を開くと、太平洋戦争中、広島女学院で働かされていた先生方に大変なご苦労があったことが語られている。広島女学院のため、ひいては広島的女子教育のために何年間も献身してこられたアメリカ人の先生方は、アメリカから帰国するように要請があったことで引き揚げを余儀なくされた。

また、ミッションスクールということで女学院自体にも日々当局の厳しい監視の目が光った。学院内部は荒らされ、厳しい尋問を受けた先生方がいらした。このように、原爆で受けた被害だけでなく、これに先立って置かれていた女学院の困難な状況についても取り上げている『夏雲』という書籍に驚嘆を禁じ得ない。

広島女学院で出会った友人には、いまでも連絡を取れる人もいるものの、残念ながら多くは連絡取り合う仲ではもうない。前述の通り、私が広島女学院で過ごしたのは3年間だけだが、のびのびとした校風で育った尊敬すべき個性的な友人たちは、たとえ再会することが叶わずとも、私に影響を与え続けている。この場で感謝の気持ちを伝えたい。

2年ほど前に広島女学院同窓会東京支部に入会した。年齢という枠を超えた同窓生に知り合えるという機会に恵まれている。故郷を離れてもこうして女学院生とのつながりを持てることはどこかで心の支えになっている。

とりわけ、東京で女学院の先輩方が開催される原爆関連の朗読会にはこれからも欠かさず出たいと思っている。原爆の記憶を語り継ぐ努力をされている方々には頭が下がるばかりだが、そのような努力に接することで、私自身も傍観者のままでいてはいけないとの思いに至った。記憶の継承に関してそれぞれの担い方でいいのだとすれば、私にできることは調査して書くことである。これまでなかなか向き合えなかった身内の受けた原爆被害について、ようやく取り組みそうな気がしている。

2024 夏雲の集いに参加して 木原 玲子(毛利/高23)

7月6日、梅雨空の土曜日の午後、関東ブロック主催の「原爆死没者追悼礼拝 夏雲の集い」が埼玉支部の担当により、北区の王子教会で行われ、同窓会長をはじめ本部幹事の方々も広島から駆けつけて下さいました。



長尾有起牧師による礼拝の後、広島女学院制作の映画「夏雲～逝きしものへのレクイエム」の上映があり、原爆投下時の母校の惨状を知ることができました。私は今まで、女学院で被爆されて命を落とされた351名の方々の多くは講堂で亡くなられ

たと思っていました。ところが、そうではなく、動員先等で被爆し、亡くなられた方が多かったそうです。その犠牲者の中に、私の父方の叔母もおりました。当時、あの状況の中では氏名を確認することは難しく、どなたか分からないままの御遺骨をいただいて帰ることになったと、後に親戚から聞いております。広島へは時々帰省しますが、近年、広島駅や広電の電車内や相生橋の付近で外国の旅行者のグループを見かけるにつけ、ヒロシマ、ナガサキの甚大な歴史を省みて平和を祈る人々の姿を心強く思うのです。(当日の参加者は40名でした。)



映画「夏雲～逝きしものへのレクイエム」のDVDは、女学院関係の方には定価の2割引きの4,400円(+送料)で販売しています。英語の字幕付きのものも入っています。ご希望の方は、東京支部まで。

東京支部 : gaines_tokyo@yahoo.co.jp

被爆証言集を読む会

8月6日、文京シビックセンター会議室にて催しました。発表者全員が自分の身近な被爆された方についてお話し、その生の声も胸に響きました。中学校で平和教育を受けているというお子さんと一緒に聴きに來てくださった方もあり、また新たな展望が見えてきました。参加者は30名でした。



井上ひさし作「父と暮らせば」朗読会

8月4日、新宿カタログハウス本社サロンをお借りして、開かせていただきました。広島で被爆した親子が全編広島弁で語る温かい物語を、広島ゆかりの三人で朗読し、慰霊の集いとなりました。参加者は23名でした。(白井京子)

2024 あやめの会に参加して 清水富士子（栩木/高14）

6月29日、あやめの会に参加しました。コロナ禍などで2019年以来5年間も開催されなかったあやめの会。久しぶりのイベントにわくわくです。

場所は北区王子の高層ビル「北とぴあ」17階にあるレストラン「VIEW&KITCHEN QUAD17」。11時半のランチタイムに30名の同窓生が集まりました。様々な年代の同窓生たちですが、そこは同じ学び舎で過ごし、共通の思い出に結ばれた私たち。あつという間に打ち解けて、互いににぎやかな会話が盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

フルコースのランチをいただいた後は場所を移し、近くの飛鳥山公園にある渋沢史料館へ。渋沢栄一は様々な企業の設立や経営に携わり、「日本資本主義の父」と呼ばれています。新1万円札にその肖像が印刷され、知名度が一挙に高まりました。館内には、誕生(1840年)から逝去(1931年)まで、年代を追ってその業績を紹介するパネルがあります。

史料館見学のアとは自由解散となりました。互いに「またお会いしましょうね」と名残を惜しみながら、緑ゆたかな飛鳥山公園を後にしました。



通信欄、メールのメッセージより



■5月の初旬に同期(高5)の友が亡くなったと知りました。同年代の著名人の方々の訃報も聞きますのであたり前と思いますが足元を風が吹きぬけます。(佐々木タカコ 佐々木/高5)

■「広島での思い出の場所」記事を読んで懐かしく思い出しました。「最近帰広して驚いたこと」とか「女学院で学んで良かったこと」「もう一度女学院に戻れたら」等も企画して楽しませてほしいな…と。(新城香代子 高木/高17)

■いつも中味の濃い東京支部ニュースを楽しみに拝読させていただいています。私はコース2団体と茶道の練習に明け暮れています。(佐藤美代 長尾/高23)

■この9月で夫93才、11月で私88才になり、老々介護頑張って生活しております。元気で居ることが幸せでございます。(榊原精子 加藤/高7)

■ゴールデンウィークに4年ぶりに広島に帰省、やっと両親の墓参りができ、また、女学院の

旧友とも40年ぶりに会うことができました。お互い変わっていないことを喜びあう幸せをかみしめました。(大野ゆかり 大野/文英13)

■この度はきれいなカードをお送りくださり、ありがとうございます。お手作りの温かさが心にしみるような素敵なカードで感激いたしました。いつの間にか年を重ね、気が付けば80歳！生かされている間は少しは他の方々のお役に立てるような日々を送りたいと願っています。(清水富士子 栩木/高14)



女学院生 ぴいちくぱあちく



女学院生が大好きなお喋りのコーナーです。紙面上ではありませんが、皆さまと楽しく交流できればと思います。毎回お題を出しますので、それにまつわる思い出やエピソードを、会費振込用紙の通信欄やメール(gaines_tokyo@yahoo.co.jp)でお寄せください。次回のテーマは「最近帰広して驚いたこと」です。また会員の皆様に聞いてみたいお題も募集しています。今回は役員が「思い出の広島グルメ」について語りました。

私にとつては昭和の(学生時代の)喫茶店グルメですね。衆望の「シューシャンテリー」(苺のショートケーキ)。中学生時代、生クリームのケーキはまだまだ珍しく、特別な物でした。白十字の「ローズマリープリン」もプリンに生クリームだったと思います。でめきんの「宇治金時」は食べている途中、いつも冷たさが頭にキーンと痛くなりました。

ちぐさの「白玉」。子供の頃母と一緒によく行きましたが、帰りにキスチョコを頂いたのが、懐かしい思い出です。(滋野順子 前埜／高19)

宮島のあなごめしです。もう何十年も前、中高生だった娘二人を連れて里帰りした際、母も一緒に宮島へ行こうということになりました。あちこち回るうちにお昼時になり、目についた

お店に入つてあなごめしを注文しました。上品な甘辛いたれのかかったあなごめしはもちろん美味しく、母と娘たちとの4人でのミニ女子旅は後にも先にもこの時だけだったので、当日の情景と共に、思い出の味となっております。

(坂下恵 杉田／文英1)
小イワシのお刺身です。なんま〜ん(?)なんば〜ん(?)と言いながらおばあさんがリヤカーを引いて売り歩きます!竹ひごのようなもので薄い身をすごい速さでそいでいきます!また食べたいな。(西山朋子 佐々木／高22・文英4)

あなごめし、広島菜漬、アンデルセンのパン・サン

ドイツ、白身魚等々、どれも、今に至るまで広島産にこだわって食べています。何十年も食せる事が嬉しいです。(鈴木章子 岩田／高19・文英1)

地御前の牡蠣です。母は流しで牡蠣を洗いながらそのまま食べていました。私は当時(30年以上前)生力キが苦手だったのでそんなワイルドなことではできませんでしたが、今なら間違いなく同じことをやる自信があります。新鮮な牡蠣ときれなお水があつてこそ、贅沢だったのだと思います。(小林悦子 土生／高46)

何といつても広島焼!2002年から7年間緑井で暮らしましたが、近くに美味しいお店がないか聞き込みをし、教えていただいたのが八木にある「楓」。あの頃は若い衆が沢山おられ、一斉に大きな鉄板でお好み焼きを焼く姿

は圧巻でした。生麺を茹でて使っていてとても美味しかったです。私のお勧めは牛筋煮込み入り肉玉です。あくもう一度食べたい! (千代崎満子 白根／高33・文英15)

宮島線沿線に住んでいたので宮島へ家族でよく出掛けていました。その帰り、必ず立ち寄っていたのが宮島口「うえの」。名物あなごめしの香ばしい美味しさは忘れられません。あと、定番だけど「ちから」の肉うどん、「むさし」のおむすび、「タカガベーカー」のフーフーミルク(今は無くなったのか売って無いので非常に残念です。(松岡理乃 木沢／高30)

中高生時代、某先生に「あんたらぴいちくぱあちくうるさい!」とよく怒られていました。そんな思い出をタイトルにしました。

昔の離婚のお話

前号の「同窓生の輪」に寄稿して下さった調停委員の瀧川ハル子さんの論文です。
大化の改新の時代からの離婚にまつわるお話が、「離縁状」、
「離婚した妻の財産」、「駆込寺」などのテーマに沿って書かれています。
スマホで右の QR コードを読み取り、ブラウザで表示してください。
サインインする必要はありません。



伝言板

◆80 歳以上でも会費を納入してくださる方々80 名
に感謝を込めて役員の松岡理乃さん(木沢/高 30)に
よる手作りのしおりカードをお送りしました。



QRコードでLINEの友だちを追加

LINEアプリの友だちタブを開き、画面右上にある友だち追加ボタンQRコードを
タップして、コードリーダーでスキャンしてください。

◆広島女学院同窓会 東京支部の LINE 公式
アカウントを作りました。

支部ニュースに載せきれない情報をお届けしま
すので、ぜひ、お友だち登録をお願いします！
LINE アプリの「友だち追加」マークをタップ➡
QR コードをタップ➡コードリーダーでスキャン！



◆Facebook でも、同窓会活動のご案内や同
窓生の活躍、母校の様子、広島ならではの話題
を折々にお伝えしています。
「広島女学院同窓会関東ブロック」で検索して
ください。

<https://www.facebook.com/gaines.kanto>

支部活動は皆さまの会費に支えられています

今年度の支部会費(2,000 円)の納入をお願いいたします

～～～ 銀行振込もご利用ください！～～～

三菱 UFJ 銀行 高田馬場支店 普通 0473771 広島女学院同窓会東京支部

東京支部へのご意見、ご感想を振込用紙の通信欄やメールでお寄せください
とても励みになります！

gaines_tokyo@yahoo.co.jp



クリスマス礼拝のご案内

2024年12月14日（土）
13:30-15:30

懐かしいお仲間と一緒に讃美歌を歌いませんか？
世代を超えた同窓生との交流もお楽しみいただけます。
お久しぶりの方、初めましての方、他支部の方も、もちろん大歓迎です。
どうぞお気軽にご参加ください。

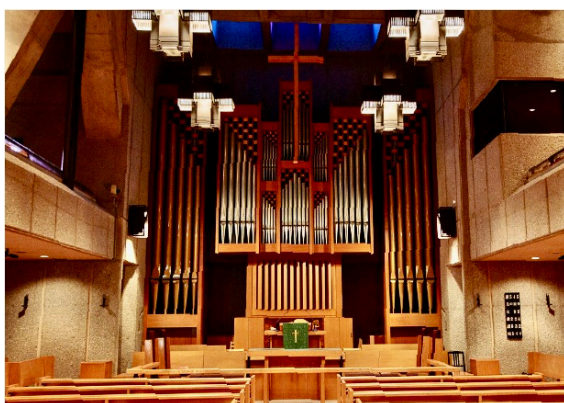
日時： 2024年12月14日（土）
13:30～15:30（受付 13:00より）

場所： 日本基督教団 銀座教会 大礼拝堂

中央区銀座 4-2-1
JR有楽町駅 中央口より徒歩5分
東京メトロ銀座線 C6・C8出口よりすぐ

13:00～ 受付
13:25 着席
13:30～ 礼拝・説教 高橋 潤 牧師
14:00～ 懇親会(5階「ぶどう」)
*お茶の用意をしております。

問合せ： 090-3063-9751（桜井）



【お知らせ】
銀座教会は12月末まで大規模修繕工事で建物全体に黒いシートがかかっています。



関東地区のクリスマス礼拝情報

神奈川支部

日時：11月28日（木）13時半～
於：藤沢教会
問合せ：080-5171-9428（徳久）

千葉支部

日時：12月2日（月）13時半～
於：新津田沼教会
問合せ：090-1774-5200（村中）

